

- 重点感染症の対象となりうる疾患は、疾患が多岐に渡り、専門性も高い。
- そのため、疾患毎の検討は、作業班のコアメンバーと各疾患の専門家や有識者からなる参考人で構成し、検討を行う。

イメージ

重点感染症作業班（コアメンバー）

微生物学、臨床医学、公衆衛生関連等の専門家



GroupA 参考人リスト

〇〇
〇〇
〇〇

呼吸器感染症 参考人リスト

〇〇
〇〇
〇〇

蚊媒介感染症 参考人リスト

〇〇
〇〇
〇〇

ウイルス性出血熱 参考人リスト

〇〇
〇〇
〇〇

エンテロウイルス 参考人リスト

〇〇
〇〇
〇〇

その他人獣感染症 参考人リスト

〇〇
〇〇
〇〇

AMR微生物 参考人リスト

〇〇
〇〇
〇〇

輸入感染症 参考人リスト

〇〇
〇〇
〇〇

生物毒 参考人リスト

〇〇
〇〇
〇〇

その他希少感染症 参考人リスト

〇〇
〇〇
〇〇

現在の重点感染症の暫定リスト

第3回感染症危機対応医薬品等の利用性確保に関する検討会
(令和4年3月22日) 資料2に一部加筆

分類	感染症/病原体名
Group X	－
Group A	<p>以下の感染症が該当する： 【社会的インパクトが甚大だが予見困難な感染症】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○以下の病原体による新たな感染症 <ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザウイルス（未知） ・コロナウイルス（未知） ・エンテロウイルス（未知） ○新たな重症呼吸器症候群をきたす感染症 ○新たなウイルス性出血熱をきたす感染症（フィロウイルスなど） ○新たな重症脳炎をきたす感染症（パラミクソウイルスなど） 等 <p>【根絶された感染症】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天然痘 <p>【人為的な改変や使用が疑われる感染症】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○遺伝子操作等を加えた新たな病原体による感染症
Group B	<p>例えば、以下のような感染症が該当する（例）： 【呼吸器感染症】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、SARS、MERS ・季節性および動物由来インフルエンザ ・RSウイルス感染症 <p>【蚊媒介感染症】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デング熱 ・ジカウイルス感染症 ・チクングニア熱 <p>【出血傾向をきたす感染症】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重症熱性血小板減少症候群(SFTS) ・既知のウイルス性出血熱（エボラ出血熱、ラッサ熱等） <p>【エンテロウイルス感染症】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンテロウイルスA71/D68感染症 <p>【その他の人獣共通感染症】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サル痘 ・ニパウイルス感染症
Group C	薬剤耐性（AMR）微生物のうち、研究開発上の優先順位が高いもの（別添5参照）
Group D	<p>例えば、以下のような希少疾患が該当する（例）： 【輸入感染症】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マラリア ・狂犬病 <p>【生物毒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物毒（ヘビ毒、クモ毒 等） <p>【その他希少感染症（自然発生する、生物兵器・テロ関連病原体・毒素によるものを含む）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・炭疽 ・ボツリヌス症 ・ペスト

⇒今後、WHO等の重点感染症のリストの動向も見つつ、今後「重点感染症の暫定リスト」の考え方と更新の是非の検討を行うために、重点感染症の検討作業班を設置を行いたい。